経済建設 常任委員会

大盛況のまちの駅「新・鹿沼宿」

民間力を生かした取り組みを参考に

委員長　備前島久仁子
副委員長　町田宗宏
委員　石内國雄
　　髙橋茂樹
　　川端宏和

今回は、このメンバーで、栃木県鹿沼市にあるまちの駅「新・鹿沼宿」を視察しました。

農産物直売所としての「物産館」。販売されているものは全て鹿沼産です。

解放感と明るさを意識したトイレ空間。日本一きれいなトイレを目指しているとのことです。

まちの駅とは？

国土交通省が認可し、幹線道路の傍らにある『まちの駅』は、24時間利用可能な道の駅とは違い、中心市街地の活性化を目的としています。人と人が出会い、地域の情報を得られる、市民主体のまちづくりの拠点です。誰でも使えるトイレと休憩所があり、地域の情報を丁寧に教えてくれる「まちの案内人」がいます。

まちの駅「新・鹿沼宿」

鹿沼市内にはまちの駅が94ヵ所ありますが、この中心となっているのが「新・鹿沼宿」であり、観光案内・飲食店・農産物直売所・トイレ・バス停・駐車場・イベント広場を完備した総合複合施設です。

歴史的にも古い街道沿いにあるため、建物に鹿沼産材を活用し、街並み景観に配慮した建物となっています。外観にはこの街道の特徴でもある「千本格子」「切り妻屋根」を、本館の屋根には、むくり屋根を採用し、宿場の特徴を出しています。また、伝統と豊かな大地が育んだ「鹿沼ブランド」14種類を認定し、その発掘にも力を入れています。直売所では鹿沼産のものだけを販売し、年間3億円を売り上げています。

まとめ

積極的な取り組み、民間力の生かし方など全てに活力を感じるまちの駅。栃木テレビやインターネットなど、さまざまなPR力を駆使して情報発信しているため、観光バスの立ち寄りもあり、ことしのGWには2万人が来場。野外コンサートやイベントも多彩で、若者が集う交流の場としても人気があります。

玉村町では、「たまむら道の駅（仮称）」のオープンを来年に控えています。多くの意見を取り入れ、特徴がある道の駅となるよう要望したいと考えます。

文教福祉 常任委員会

放課後児童クラブの対応状況について調査

受け入れ態勢は万全か！

委員長　宣治
副委員長　宇津木惠子
　　三友美秀夫
委員　原俊彦
　　渡辺武志
　　浅見宣

今回は、このメンバーで、放課後児童クラブについて調査しました。

大幅な定員オーバーが予想される西児童館の放課後児童クラブ

（旧）桐生信用金庫玉村支店。この建物を改修し、2階の一部を放課後児童クラブとして利用する計画となっています。

玉村町の放課後児童クラブの現状

現在、玉村町にある5ヵ所の児童館では、保護者が仕事などのため、家庭で保育できない小学校低学年の児童を対象に、放課後児童クラブを行っています。

各児童館の放課後児童クラブの登録者数は、西児童館が70人前後、健康の森児童館が44人と少なくなってきていますが、その状況は流動的です。上陽児童館は少しずつふえており、中央児童館については70人を超えることも多く、過去には80人という年もありました。南児童館については、70人前後で推移しています。

放課後児童クラブを6年生まで拡充

放課後児童クラブは、国の制度改正により、対象が小学校3年生から6年生までに拡充されることが決まっています。

現在3年生の子どもについては、4年生になってもほとんどが継続して利用することが予想されますが、5・6年生から新たに申し込むケースは少ないと考えられます。この予想だと、健康の森児童館以外は、ほとんど定員数を超えてしまいます。特に西児童館と中央児童館については、定員数を大幅に超えてしまうため、その対応を検討する必要があります。

まとめ

玉村町では、学校区ごとに児童館が設置されてから長い歴史があり、それは子育て支援に非常に有効でした。しかし、現在は放課後児童クラブとしての業務のウエイトが大きくなり、本来の児童館機能との両立が難しい場面も出てきているようです。

このような状況においては、子ども育成課だけでなく、学校側とも協力・支援していく体制が必要であると考えます。両者の連携なくして、児童の放課後支援のスムーズな導入は望めません。子ども・子育て支援法の改正に基づき、子どもの保育・教育の全体を考えて、しっかりと対応していくことを要望します。